



第8回講演会報告

こだわらるべきは栄養
く口から楽しむ胃瘦から補うく

埼玉県摂食・嚥下研究会だより
「高齢化時代のセーフティ・ライブを目指して」

埼玉県摂食嚥下研究会第8回講演会は、平成21年3月1日(日)に埼玉県民健康センターにて13時~16時まで開催されました。講演会のテーマを「こだわらるべきは栄養く口から楽しむ胃瘦から補うく」として二つの講演が行われました。



講演Ⅱの演題は「摂食機能からみた栄養支援」で、講師は日本歯科大学附属病院准教授 口腔介護・リハビリテーションセンター長 菊谷武先生です。当日は医師、歯科医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、栄養士、管理栄養士、ケアマネ等の介護職、作業療法士・言語聴覚士・理学療法士、養護学校教員等多数の職種333名が熱心に受講されました。

vol.12

発行日 平成21年5月25日

発行者 埼玉県摂食・嚥下研究会
会長 吉原 忠男
事務局

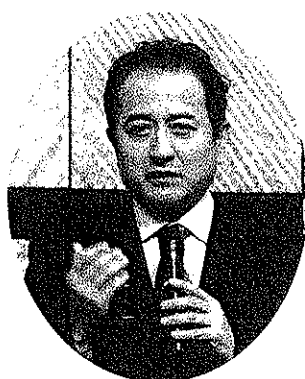
埼玉県浦和区計ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
(社) 埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

講演Ⅰ

PEGと経腸栄養の常識・非常識

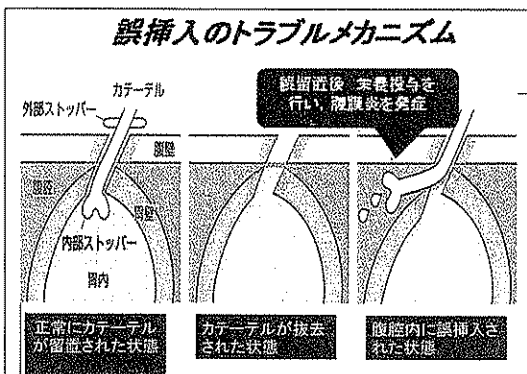
国際医療福祉大学外科教授・
上席部長

鈴木裕先生



始めに基本的な事を踏まえる為胃瘦についてビデオにて紹介があった。その内容は、①胃瘦とは、②メリット、③適応症、④方法、⑤合併症でした。その後、講演では胃瘦はリハビリテーションとして考え食べられない

ない人に口から無理矢理食べさせるのではなく、また食べられないので無理矢理胃瘦にしてしまおうではなく本人、家族に負担にならないようにするため将来につながるために行う。再度口から食べられるように支援する為の方法と考える。胃瘦は簡便で開腹手術を行う必要がなく使用の仕方の理論をキチンとすればよりよい方法である。使用しなくなれば簡単にとじることも可能です。使用中に起こる創部感染予防、胃瘦カテーテル交換時の腹腔内誤入、と誤入しないための新しい交換器材の開発↓インジゴカルミン液を使用した胃内留置確認法(IG-CR法)、エビデンスはまだないが経腸栄養剤の半固形化(とろみ)のコンセプトはよい。



講演Ⅱ
**摂食機能から
 みた栄養支援**
 日本歯科大学附属病院准教授
 口腔介護・リハビリテーション
 センター長
菊谷 武 先生



菊谷武先生は1ヶ月に1回、埼玉県口腔保健センターに診療に来られている。

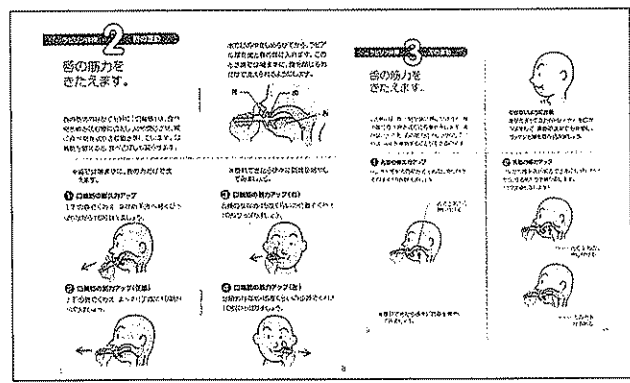
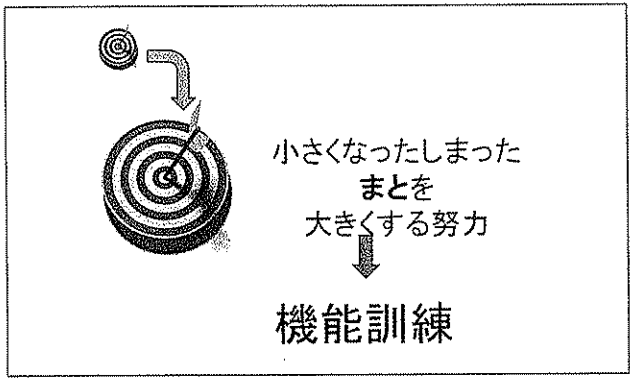
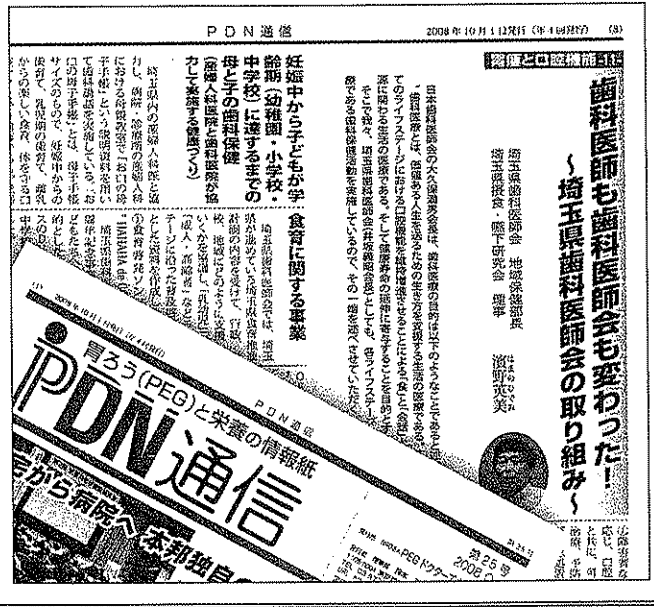
70代女性、脳卒中の後遺症でワレンベルク症候群の患者さんが1ヶ月で退院したが胃瘻になり、センターを訪れ受診した症例を紹介した。症例は、大学病院で入院し訓練を経て、声に力がでて声に変化が現れる。その後口腔保健センターで訓練を続け、経口摂取に至った経過について、実際のVE画像などを使用し紹介した。その後、咀嚼とは何かについて

解説し、咀嚼には、舌、頬の運動が重要であると述べた。咀嚼障害について、器質性咀嚼障害、運動障害性咀嚼障害の概念を紹介し、咀嚼運動を適正に観察することの重要性を述べた。また、摂食・嚥下障害患者へのアプローチとして、代償的な方法である食環境の整備（食形態の調整、食べ方の調整、姿勢の指導）が重要であるとした。このような努力をしたことにより、施設の肺炎発症率は3割減少した事例を紹介した。「きつと防げる肺炎、窒息はある」とのこと。講演は終了した。

**埼玉県摂食・嚥下研究会
 及び埼玉県歯科医師会の取り組み
 が紹介される。**

08年10月1日号のPDN通信（発行：NPO法人PEGドクターズネットワーク）8・9ページの「胃瘻と口腔機能」のコーナーで、全国に先駆けて設立した当研究会の主旨や活動が紹介された。

取材を受けた濱野理事は、「全てのライフステージにおける口腔機能を維持増進させることによる『食』と『会話』という生活の根源に関わる生活の医療であり、健康寿命の延伸に寄与することを目的とする」と述べ、当研究会を通して、医師、看護師、栄養士、薬剤師はじめ、摂食・嚥下機能障害に関わる多職種の方々との交流の重要性を解説した。



世界約50カ国で愛用されているEBMに基づいた口腔ケア
口腔乾燥・・・biotène® バイオティーン

- + だ液にも含まれる天然酵素
 ラクトペルオキシダーゼ
 グルコースオキシダーゼ
 リゾチーム
- + ラクトフェリン
- + 保湿・潤滑成分
- + キシリトール

21世紀の健康のキーワードは・・・**唾液！！**

製造販売元 ティーアンドケー株式会社 Laclede, Inc. ラクリード社(米国製)
 東京都中央区日本橋堀留町1-5-7 TEL: 03-5640-0233 FAX: 03-5640-0232
 URL: www.biotene-tk.co.jp E-Mail: info@biotene-tk.co.jp

埼玉県歯科医師会口腔保健センター 摂食・嚥下機能訓練のお知らせ

埼玉県摂食・嚥下だより9号で「埼玉県歯科医師会口腔保健センターの摂食・嚥下機能訓練のお知らせ」について掲載しましたが、今回は中途障害担当の菊谷武先生（日本歯科大学准教授、口腔介護・リハビリテーションセンター長）が行っている摂食・嚥下機能訓練について詳しくご紹介させていただきます。

埼玉県歯科医師会口腔保健センターには、日本歯科大学口腔介護・リハビリテーションセンターの菊谷武先生が月1回お見えになっております。

先生には、中途障害（高齢者）の摂食・嚥下障害の患者さんを担当していただいております。現在受診中の患者さんの障害としては、脳血管障害後遺症、パーキンソン氏病、脊髄疾患などです。

実際の診療はどのようにしているのか、少しお話ししましょう。予約はお一人1時間取るようにしており、午前が二枠、午後が四枠で、6人を診察できる体制です。摂食指導では、実際に食事をしている様子を一緒に見せていただきながら指導を行っております。来院時には、普段食べている食事と飲み物、または現在食べられない物・食べさせたいと思っている形態の食べ物。今は口から食べていないが、受け入れられそうな食べ物、飲み物を持参していただきます。

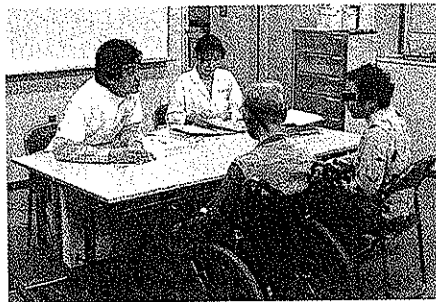
ほとんどの患者さんに、嚥下内視鏡検査（VE）をしております。鼻からファイバーを挿入して、実際に食べたり飲んだりしていただき、咽頭・喉頭の状態を確認します。しかしこの検査では、実際に誤嚥しているかどうかはわかりません。それを調べるには、嚥下造影検査（VF）が必要になり、その場合、日本歯科

大学病院に行ってください行っております。

《症例：70代女性 脳血管障害後遺症》

摂食障害があり、本人と家族からVEの希望があり、近医の訪問リハのSTからの紹介で、家族とSTと共に当センターの摂食外来を受診。

経過：平成20年11月25日に当センターの摂食外来初診。VEを行い、精査とリハビリ訓練のため日本歯科大学に12月8日から12月12日まで入院。12月20日に当センター受診して、VEを行い、それに対して食事指導、訓練の指示。在宅ではSTが訓練を行っており、月1回当センターの摂食外来を受診して、検査と機能訓練を行っている。現在は、訓練や指導の成果があり、体重増加、むせもほとんどなくなってきている状態です。



当センターでは、月1回摂食・嚥下機能訓練を行っています。

うまく食べられない、食べこぼす、よく咬まない、食事に時間がかかる、むせるなどの問題があったり、困っていたり、悩んでいたりとすることがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

■発達障害担当：尾本和彦（心身障害児総合療育センター歯科医長）

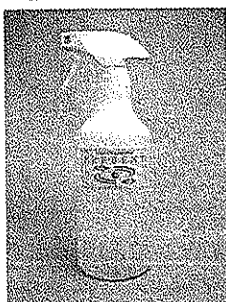
■中途障害担当：菊谷武（日本歯科大学准教授、口腔介護・リハビリテーションセンター長）

埼玉県歯科医師会口腔保健センター
TEL 048-835-3210
FAX 048-835-3220

埼玉県摂食・嚥下研究会会員数 234名・38団体（2008.3現在）

ホームページ <http://www.ssek.net/>

新型インフルエンザ等の院内感染予防は万全ですか？



- 手指、器具、機器の除菌、ユニットまわり全般の除菌消臭が手軽に行えます。（除菌後は水に戻る性質なので安全）※人体無害
- 院内感染対策、専用の超音波噴霧器にて空間噴霧する事により院内の空間除菌が瞬時にできます。（同時に空間消臭もできます）

【発売元】ネクスト・ウェイ株式会社 東京都文京区小石川2-1-1丸統ビル702 TEL03-5805-5223

詳しくは→<http://www.next-way.biz/prebent>

埼玉県摂食・嚥下研究会

第9回 講演会

日時：平成21年7月12日(日) 13:00～16:00

場所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール

今回は、横浜市立大学附属市民総合医療センターリハビリテーション科の医師、若林秀隆先生をお招きして、初級～中級程度の模擬症例を基に、講師の若林先生と参加者同士で評価や方針についてのディスカッションを行います。また実習では、一口ゼリーを使用したフードテストや、唾液嚥下テストを実施する予定ですので、是非ご参加ください。

講演内容

演題：

「症例から考える
摂食・嚥下機能の評価と胃瘻の適応」

講師：

横浜市立大学附属市民総合医療センターリハビリテーション科

若林 秀隆先生

(症例)

元来元気であった92歳男性。自宅で転倒し右大腿骨頸部骨折受傷。人工骨頭置換術後に誤嚥性肺炎となりしばらく禁食。その後、リハビリを行ったが車椅子移乗レベルまでしか改善せず自宅退院は困難で老健に入所。入所後さらに摂食嚥下機能が低下。大腿部と下腿は骨が容易に触れるようになり、仙骨部に褥瘡を認めた。今のうちに何かできることはないのだろうか。急いで胃瘻を造設している病院に相談しておいた方がよいのだろうか。胃瘻を造設してしまったら、もう口から食べられないのだろうか。

■定員：300名

■参加費：会員/ 無料
非会員/ 2,000円(資料作成代等)

■申込締切日：7月6日(月)

主催：埼玉県摂食・嚥下研究会

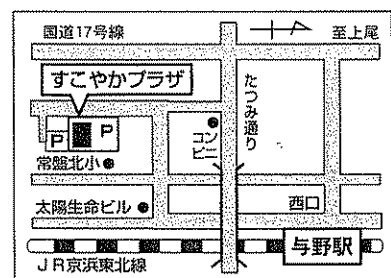
問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323

埼玉県摂食・嚥下研究会 第5回総会

日時：7月12日(日) 11:30～12:00
場所：すこやかプラザ2階研修室2・3

第5回総会議決事項

- 第1号議案 平成20年度事業報告の承認に関する件
- 第2号議案 平成20年度収支決算の承認に関する件
- 第3号議案 平成21年度事業計画の承認に関する件
- 第4号議案 平成21年度収支予算の承認に関する件



参加申込書 埼玉県摂食・嚥下研究会 (会員・非会員) ※どちらかに○を付けてください

フリガナ		職 種	
氏 名		電 話	
住 所 (勤務先)	〒 -	FAX	

申込書 FAX先 048-829-2376